

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

和歌山県

学校名

和歌山県立新翔高等学校

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等高校3年生・日本史
探究

時数等

2時間

目標・人権教育のねらい

- ・同和問題についての偏見や差別を許さない態度を育成する。
- ・同和問題についての現状や課題についての理解を深める。
- ・すべての人の人権が尊重される社会が求められていることについて知る。

実施した内容

- ・江戸時代の文化史において、身分差別がどのような時代背景から生まれたのか、またそれ以降の時代ではどのように変容を見せたかを説明し、なぜ差別が数百年も続いたかを考察させた。
- ・差別が現在でも続いている現況を踏まえ、どのような姿勢が大切か考察し、意見交換した。

工夫した点

- ・教育委員会指導主事による人権研修を通じて、同和問題に係る関係法令や歴史的背景等を学ぶとともに、事例について協議を行うことで、教員が当該人権課題について理解・認識を深めた。
- ・和歌山県からの人権啓発のためのポスターを掲示し、環境作りに努めた。
- ・子ども会職員と学習支援推進教員・各小中高等学校の人権教育担当教員等との合同会議（月に1回）に出席し、子ども会所属生徒の学校での様子を報告した。生活面と学習面の両面について情報を共有し、小中学校や教育委員会、市役所との連携を図った。
- ・東牟婁地方子ども会連絡協議会・東牟婁地方学習支援推進教員等連絡協議会合同研修会に出席し、当地方の人権課題についての研修を行い、情報交換を通じて今後の同和教育の推進について協議した。

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との 関連

- ・ 歴史総合の授業の中で、差別の歴史について取り扱うなかで同和問題にもふれ、扱った。

事業成果

【評価指標】

- ・ 知識的側面：「差別についての歴史や現状を理解しています。」
(肯定的回答 1回目78% ⇒ 2回目81%)
- ・ 価値的・態度的側面：「差別を許さない態度を身につけています。」
(肯定的回答 1回目87%⇒86%) (否定的回答 1.6%⇒0.5%)
- ・ 価値的・態度的側面：「正義を守ろうとする気持ちがあります。」
(肯定的回答 1回目78%⇒80%)
- ・ 技能的側面：「誰とでも分け隔てなく、協力して取り組むことができます」
(肯定的回答 1回目78% ⇒ 2回目80%)

【生徒変容の分析】

<生徒の振り返り>

- ・ 小学校や中学校でも学んできたので同和問題について知っていたが、自分が成人年齢に近づくとつれて、就職や結婚を考えなければいけないときにどこかで直面するのかもしれないと思った。正しい知識を持っておきたい。

<分析>

- ・ 本校が所属する新宮市では子ども会の活動が活発であり、同和問題を知る機会や初等教育の段階から身近に学ぶ機会が多いが、将来の中でそれらの課題によって苦しんでいる人たちが今も尚居ることを確認し、差別を生まない態度を育成できた。

【その他】

<研修後の若手教員の意見より>

- ・ 無知が新たに差別を生み、今なお多くの人達が苦しんでいる現状があると知った。

<分析>

- ・ 教員間でも、同和問題に対する知識や捉え方に変化が見られた。
- ・ 同和問題について、今までの小中高等学校の学習経験内で、深い学習活動がなされなかった世代の教員も中にはおり、年代、世代、出身地域によつての同和問題の捉え方に差異が見られた。

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

和歌山県

学校名

和歌山県立新翔高等学校

人権課題

外国人

対象学年・
取り扱った教科等高校 1 年生・歴史総
合

時数等

4 時間

目標・人権教育のねらい

- ・差別の歴史を知り、他国の現状や課題、取組について理解を深める。
- ・日本における外国の現況を知ることで、分析する力を身に付ける。
- ・得た知識を持って「自分ごと」として考える態度を身に付ける。

実施した内容

- ・「Black Lives Matter」を題材に、黒人差別の現況について触れ「歴史総合」科目の導入とした。（1時間）
- ・大航海時代のヨーロッパやアメリカにおける黒人奴隷の差別について触れ、差別の歴史や現況について考える。（2時間）
- ・和歌山県人権啓発センター理事の城山雅宏先生にオンラインでご講演をいただき、和歌山県や新宮市における在日外国人の方々の現況や課題を知り、差別解消の手立てを考える。（1時間）

工夫した点

- ・社会科での教科指導だけでなく、様々な背景や文化形成等が複合的に絡み合っていることに着目させ、今起きている問題が決して他人事でないことに気づかせる。
- ・無知が差別を引き起こすこと、正しい知識を持つこと、生徒自身が参政権を得る年齢にさしかかっていることにも意識をさせながら、社会に正しく公平にアプローチする必要性を念押しし、教育活動を進めた。
- ・外国にルーツを持つ生徒がいることにも配慮し、上記の取組を行う際には本人や保護者に了承を確認しながら授業を行った。

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との 関連

- ・ 日本史探究や地理探究では自国の文化や社会問題について生徒達にレポート課題を課した。その中で外国の方々との関わり合いや国際問題に触れ、人権的観点に触れながら解説した。

事業成果

【評価指標】

- ・ 知識的側面
「差別についての歴史や現状を理解しています。」
(肯定的回答 1回目78% ⇒ 2回目81%)
- ・ 価値的・態度的側面
「様々な価値観を尊重しようとする態度を身に付けています。」
(肯定的回答 1回目87% ⇒ 2回目88%)
- ・ 技能的側面
「集団の一員として多くの人に支えられていることに気づいています。」
(肯定的回答 1回目81% ⇒ 2回目87%)

【生徒変容の分析】

<生徒の振り返り>

- ・ 同じ日本の中（例えば、関東と関西）でも文化の違いがあるのだから、外国と日本の間でも違いがあるのは当然で、文化の違いを認め合うことがとても大切なんだと思った。
- ・ グラフの傾向を見てみると、これからの社会では外国人と関わる機会が増えていくと思われる。コミュニケーションがとれるように英語を話すなど、自分ができることを少しずつしていきたいと思った。

<分析>

- ・ 差別があった事を踏まえて、世界ではどのような運動が起こっていたかを知ることで、歴史や現状を理解することができた。
- ・ 現況がはっきりとわかっていなかった生徒も多かったが、グラフなどで数値が可視化されたことにより、イメージができ、具体的な状況がわかり始めたように感じた。

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

和歌山県

学校名

和歌山県立新翔高等学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等高校 1～3 年生・LHR、
情報科科目

時数等

3 時間

目標・人権教育のねらい

- ・インターネット上のトラブルの事例を知り、トラブルに巻き込まない、巻き込まれないようにするにはどのような方法があるかを知る。
- ・インターネット上における様々な人権問題について学習することを通して、互いに人権を尊重しながらよりよい人間関係を築いていこうとする態度を育む。
- ・IT機器の積極利用を進める一方で特性を理解し、適切に活用しようとする意欲を高める。

実施した内容

- ・情報機器の取り扱いなどを通じてメディアリテラシーについて学ぶ。(1時間)
- ・情報モラルの視点を中心として、ネット上で想定される人権侵害トラブルについて学ぶ。(1時間)
- ・外部講師による情報モラル講演(オンライン)により、高校生が巻き込まれやすい人権侵害トラブルの事例等について学ぶ。(1時間)
- ・外部から講師を招き「パワポ活用講座」と題して、基本的な知識や見やすいPowerPointの作成方法について講演いただくとともに、実践することを通して、より良い伝え方について学ぶ。(2学年)(1時間)

工夫した点

- ・生徒達にとって身近なSNSを事例に取り上げ、取り組みやすさを持たせた。
- ・授業の場面や講演会などを通じて、事例を取り上げながら同世代間でのインターネットトラブルにどのような事例が見られるか、それを回避するためにはどうしたらよかったかを実践的に取り組む手立てを設けた。
- ・教科指導において積極的にインターネットや情報機器を活用するために、全教員がタブレット機器を活用した授業の取組を行い、職員間や他校の教員に公開し、授業の協議や改善を行った。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

- ・教科指導や「産業社会と人間」、総合的な探究の時間などで積極的にタブレット機器を活用し、それらを用いて情報収集や分析、PowerPointを用いて成果の発表を行った。その際に情報の取り扱いや発表内容に対して、他者への人権侵害を行ってしまわないように配慮を心がけるように呼びかけた。

事業成果

【評価指標】

- ・知識的側面：「友達を考えや気持ちを伝え合うことは大切です。」
(肯定的回答 1回目95% ⇒ 2回目93%) (否定的回答 1回目0.8% ⇒ 2回目0%)
- ・価値的・態度的側面：「集団の一員として責任を果たそうとしています。」
(肯定的回答 1回目78% ⇒ 2回目81%)
- ・技能的側面：「自分の考えをわかりやすく友達に伝えることができます。」
(肯定的回答 1回目66% ⇒ 2回目69%)

【生徒変容の分析】

- ・情報収集にあたって、知的財産権や配慮しなければならない人権課題について向き合うことができた。
- ・どのような事例があるか、SNS等の情報がどれだけ個人を特定する力を持つかを実践的に理解することができた。
- ・自分の意見や調べたことを相手に伝える技術に自信がなかった生徒が当初多かったが、授業や講演会を通じて「相手の立場に立ってわかりやすく伝える」技術や視点を学び、自分の考えを伝えようとする態度を育むことができた。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

和歌山県

学校名

和歌山県立新翔高等学校

人権課題

性的指向・性自認

対象学年・
取り扱った教科等高校1～3年生・LHR、
総合的な学習の時間

時数等

3時間

目標・人権教育のねらい

- ・多様な性自認が存在することを知り、現在その人達が置かれている現況や課題を知る。
- ・性差による課題や向き合い方に触れ、自分や自分の周囲にいる人たちとの関わり合い方について見つめ直す。

実施した内容

- ・LGBTQ講演（講師：チーム紀伊水道 倉嶋麻理奈氏）において、性的マイノリティの現況を知る。（1時間）
- ・性教育講座（講師：かつこ助産院 本館千子氏）において、実体験を元にした講演により思春期の今それぞれの性別で起こりうるトラブルや悩みについて理解を深める。（1学年）（1時間）
- ・デートDV防止講演において、いくつかのパターンにおける男女の会話をロールプレイングで行う。また、男らしさや女らしさの問題点にも触れ、実際役を行った生徒と、それを見ていた生徒それぞれの立場で意見交換を行う。（2学年）（1時間）

工夫した点

- ・様々な場面や事例を通じて自分の性、周りの人たちの性について考える機会を設けた。
- ・当事者である講師先生達の経験談をもとに、これらを踏まえて自分がどうするべきか、周囲に悩んでいる人がいればどのような態度で受け入れるかを考える機会を設けた。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との 関連

- ・保健の授業では「生涯を支える健康」の単元で性による男女の身体の仕組みや妊娠出産を、家庭科の授業では「人生をつくる」「共に生き、共に支える」単元で、ジェンダーや性自認に触れながら学習活動内でも取り扱ってきた。
- ・LGBTQ啓発を目的としたレインボーフェスタ那智勝浦2024に参加し、出店を通じて啓発活動の支援、地域との交流を行った。

事業成果

【評価指標】

- ・知識的側面：「「考える」ことが、友達とのコミュニケーションの基礎です。」
(肯定的回答 アンケート1回目81%⇒2回目84%)
- ・知識的側面：「様々な価値観をもった人々と暮らしていることを理解しています。」
(肯定的回答 アンケート1回目88%⇒2回目89%)
- ・価値的・態度的側面：「ありのままの自分を、大切な存在であると受け止めようとしています。」
(肯定的回答 アンケート1回目87%⇒2回目89%)
- ・価値的・態度的側面：様々な価値観を尊重しようとする態度を身につけています。
(肯定的回答 アンケート1回目77%⇒2回目81%)
- ・技能的側面：「自分と異なる価値観を持つ友達に対しても関わることができます。」
(肯定的回答 87%⇒84%)

【生徒変容の分析】

- ・デートDV防止講演後に書いた講演者の方に向けた任意のアンケートでは、交際相手との関係や性別のこと、性についての悩みなど質問や感想を積極的に書いていた。
- ・性差やジェンダーの観点からも自分や交際相手、その他周辺の身近な人たちとの関わり合いを自分なりに見つめ直している様子が見られた。
- ・相手に自分の意思や意見を伝えることの大切さ、またそれを受け入れる気持ちや態度を考え実行することの大切さに気づいていた。